

令和8年度 教育学部一般選抜（前期日程）

国 語

【出題の意図】

□（配点30点）

2つのグラフを適切に分析した上で、それを根拠として、言葉の意味の変化についての自分の考えを、明瞭かつ論理的に表現できるかを問う。

【解答例】

□（配点80点）

問一 10点（各2点）

（a）妥当 （b）生息地（棲息地、栖息地） （c）戻 （d）錯誤 （e）掲

問二 10点（各2点）

（ア）あいまい （イ）わき （ウ）よんだ （エ）せきしゅん （オ）かいこ

問三 10点 点線部A「立て」は動詞「立てる」の連用形。点線部B「立て」は複合動詞「掻き立てる」の連用形「掻き立て」の一部。

問四 8点 現在、「墓」が夏の季語とされているのは、繁殖期を終えた後の庭などでよく見かけるヒキガエルの姿に着目したためだろうと、筆者は考えている。

問五 10点 日本でよく見られるヒキガエルは、生息地（セイソクチ）などで生態に幅があるため、初春から晩春まで繁殖時期が続くから。

問六 10点 夏井いつきと大野林火の鑑賞は、墓をきっかけに惜春の情が湧きあがった句と理解する点で、一致している。

問七 7点 フィクション

問八 15点 繁殖期ではない夏には鳴かない墓に「声のかぎり鳴いてほしい」という詠み手の願望から過ぎていく夏を惜しむ心情を含めた情景が受け取れる。夏の季語として鳴かない墓を用いているところに夏はもう戻らないと示しているように思われて、魅力を感じる。

三 (配点50点)

問一 9点 (各3点)

(ア) すぐに・即座に (イ) 長年・数年来 (ウ) 畏れ多い・もったいない

問二 3点 えぼし (えぼうし)

問三 6点 (各3点) ①イ ②エ

問四 (1) 7点 逃れられそうに思えませんでしたので、捕らえられてしまったのでございます。

(2) 7点 後鳥羽院自らのおでましに畏れ多いうえに、その院が重い櫓を軽々と持って指揮をとる様を見て、自分の運も尽きたと思い、気力も衰えてしまったから。

問五 (1) 3点 交野八郎を奉公人として召し抱えた。

(2) 7点 八郎が、武勇に優れているうえ、状況を的確に判断する力もある有能な人材であり、上皇への敬意も持ち合わせていることがわかったから。

問六 8点 上皇でありながら陣頭で指揮をとり、盗賊でも有能なら配下に召し抱えるところから、常識にとらわれない型破りなリーダーであることがわかる。また重い櫓を片手で持ち、武士たちを率いるところから、武力に秀でた人であることがわかる。

四 (配点40点)

問一 6点 (各3点) (a) こたえて (b) ついに

問二 (1) 6点 霊輓は趙宣子から与えられた食べ物を半分食べないで残しておいた。

(2) 6点 三年仕官していて母の安否を知らず、近くまで来たため食べ物の半分を分けて食べてもらおうと考えた。

問三 (1) 6点 これをつくさしめてこれがためにしとにくとをたんにし、これをふくろにおきてもってこれにあたう

(2) 6点 趙宣子は霊輓に食べ物をすべて食べさせて、彼のためにめしと肉を飯びつに詰め、袋に入れてもたせた。

問四 (1) 2点 霊輓

(2) 8点 飢えていた時に食べ物を施されたり母親にも食べ物を贈られるなど、趙宣子に助けられたことから、彼の身の危険を救ってその恩に報いようと思ったため。